

IT業界で高齢者の労働力を活用する動きが広がっている。ウエブサイトやシステムの構築、アプリの開発など、IT事業を手掛けるライトカフェ(東京、榊原喜成代表)が八戸市に開設しているサテライトオフィスでは、市シルバー人材センターから派遣された60〜70代の高齢者12人が、AI(人工知能)の開発に携わる。シルバー人材センターは、市シルバー人材センターから派遣された60〜70代の高齢者12人が、AI(人工知能)の開発に携わる。シルバー人材センターは、市シルバー人材センターから派遣された60〜70代の高齢者12人が、AI(人工知能)の開発に携わる。

少子化の影響で若い世代の働き手の不足が懸念される中、シニア世代の労働力に期待が高まっている。内閣府の2021年版高齢社会白書によると、60歳以上の4割が「働けるうちはいつまでも働きたい」との意思を示しており、就業意欲の高さをうかがわせる。企業側でも定年引き上げの動きが広がり、希望者全員が65歳以上まで働ける企業は8割を超える。シニア世代が長年培ってきた経験や知識は、今後の社会でどのように生かされるのか。現状と課題取材した。(三浦千尋、里村静)

## タイアップ! 連携のススメ

「毎日の生活に張り合いが出て、可能性が広がっている」と実感している。生き生きと話すのは、同市のオフィスで勤務する猪内和さん(68)と前川原弘美さん(64)。2人は、AIに画像や日本語を学習させ、精度を高めるために必要なデータを「AIアノテーション」と呼ばれる業務を任されている。パソコン入力という単純な作業に見えて、実は正確さが求められる。AI開発には欠かれない要素だ。

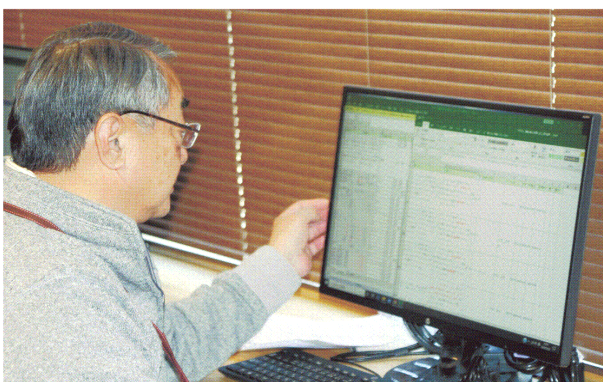
### シルバー人材×AI開発

# やりがいや雇用創出

「毎日生活に張り合いが出て、可能性が広がっている」と実感している。生き生きと話すのは、同市のオフィスで勤務する猪内和さん(68)と前川原弘美さん(64)。2人は、AIに画像や日本語を学習させ、精度を高めるために必要なデータを「AIアノテーション」と呼ばれる業務を任されている。パソコン入力という単純な作業に見えて、実は正確さが求められる。AI開発には欠かれない要素だ。

## 若手社員に好影響も

「若手社員にも好影響を与えている。同市のオフィスで業務管理に携わっている。AI開発には欠かれない要素だ。」と、やりがいを感じている。シルバー人材の活躍は、若手社員にも好影響を与えている。同市のオフィスで業務管理に携わっている。AI開発には欠かれない要素だ。



集中してパソコンに向かうシルバー人材の姿は、若手社員の刺激にもなっている=八戸市(ライトカフェ提供)



新型コロナウイルス感染拡大前のオフィスの様子。コミュニケーションを取りやすいようレイアウトが工夫されている(ライトカフェ提供)

# 役割や価値認識重要

## 定年前にマッチングを

高齢化が進む青森県では、高齢者が定年退職後も生きがいや役割を持つて生活し続けられる場の創出が不可欠だ。高齢者福祉や介護予防に詳しい、県立保健大学の工藤英明教授に現状や課題を聞いた。

### 青森県立保健大 工藤准教授に聞く

県などは、障害者の就業支援マッチングをしてはどうか。それは非常に積極的だが、高齢者の場合は実態が見えない。高齢者雇用の場を設けやすくする。高齢者が役割を持ち、多様な人たちと関わる場が多くできていく。共に働く若い世代が意識すべきことだ。

「一県内での実態は、2018年度の「全47都道府県幸福度ランキング」では、ポランディアとして活動している高齢者の割合が47都道府県中46位と低かった。経済的な理由などで、少しでも賃金が得られる就労を選んでいくのではないかと推測している。」



「定年後も活躍できる場をつくるのが必要」と語る工藤英明准教授(右)は、青森市。

# 働き手不足解消の鍵に

## 高齢者雇用、ライトカフェ代表 「まずはチャレンジ」訴え

超高齢社会を迎え、働き手の不足が懸念される中、知識や経験が豊富な高齢者の労働力に熱視線が送られている。2021年版高齢社会白書によると、20年の65歳以上の労働力人口は922万人で、総数に占める割合は13.4%。定年を引き上げたり、定年退職後のシルバー世代を積極的に雇う企業が増えたりしている。このうち「働きたい」という高齢者も増加傾向にある。今後は、高齢者の労働力を生かす環境づくりが働き手不足解消の鍵となりそうだ。



「高齢者の能力を引き出せる環境をつくるのがポイント」と話す榊原喜成代表=東京都内(ライトカフェ提供)

この企画に関する意見を募集しています。取材をお願いする場合がありますので、連絡先を添えてください。断りな氏名などを紙面に掲載することはありません。宛先は〒031-8601(住所不要)デーリー東北新聞社報道部「タイアップ」連携のススメ取材班。ファックスは0178-455000。メールアドレスはshakari-saizensen@daily-tohoku.co.jp